

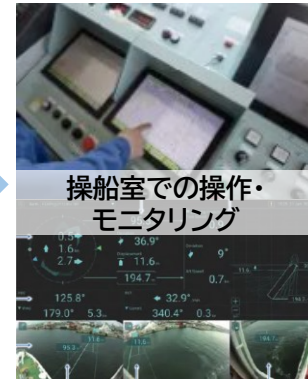
報告

内航海運の作業効率化に向けた指針策定調査の実施 について

内航海運の作業効率化に向けた指針策定調査(令和8年度実施)

事業内容

- 船員の労働性の向上と魅力ある職場環境の改善が喫緊の課題であり、これらに対応するためには、**船員の労務負荷軽減の取組が不可欠**。
- 特に、貨物の荷役前後に発生する作業は船員の大きな負担になっており、これらの作業の中には、長年の商慣習により船員が行っているものの、本来は陸側で実施することが望ましい作業や、船側と陸側で作業分担が不明確な作業が含まれているとの声も聞かれる。
- 内航海運の取引環境の改善および生産性向上を目的として、離着岸時、運航時、停泊・荷役時における船員及び陸上作業員の作業内容について、**改善が必要な作業を特定し、作業方法や手順の見直し、非効率な業務の廃止など作業効率化のための指針を策定する**。



スケジュール(案)

現状調査・分析

作業内容の実態調査・分析(6月~8月)

船員・陸上作業員が実施している作業内容の実態をWEBアンケート・事業者ヒアリング等で調査する。実態調査を踏まえ、改善が必要な作業等を整理する。

指針策定

作業効率化に向けた指針の検討(9月~)

実態調査・分析を踏まえ、作業方法・手順の見直しや非効率な業務の廃止などについて、検討会や安定・効率輸送協議会等で検討し、「作業効率化に向けた指針」を策定する。

ガイドライン改定

ガイドラインへの反映(3月)

「内航海運業者と荷主との連携強化のためのガイドライン」に、整理した「作業効率化に向けた指針」等を反映する

関係者周知

荷主・内航海運事業者への周知(3月以降)

荷主と内航海運事業者等に対し、安定・効率輸送協議会等を通じて、周知し、内航海運業の更なる取引環境改善・生産性向上を図る

フォローアップ

継続的なフォローアップ

取組状況をアンケート等で確認し、作業の効率化に向けた継続的なフォローアップを実施する。

事業効果

長年の商慣習により船員が行っていた作業の整理や、無駄な作業の廃止や作業の省力化につながるなど、**更なる取引環境の改善や船員の労働環境の改善、生産性の向上が図られること**で、安定的な海上輸送を確保する。